

講義名	業界研究（官公庁）/企業論特別講義（官公庁）			授業形態	
担当教員	辻 美代 / 森脇 丈子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

**主題と概要**

本講義は私たちの生活を支える役割を担う公務員について、学生に知ってもらうために開講します。公務員の仕事内容は幅広く、国民全体にかかる政策の企画・立案から、地域の生活全般にかかわる行政サービスの提供まで様々な組織・仕事がある。官公庁としては警察・消防・市役所・県庁を主たる対象とするが、とりわけ私たちの生活環境を整備し支える身近な職種を紹介する。この授業の特徴は、ゲストスピーカーの方々の日々携わておられる様々な仕事内容を通じて、私たちの生活のおおきの領域が公務労働によって支えられていることを知り、社会とのかかわりを認識することにあります。

公務員を志望する学生だけでなく、日々の暮らしに関心を持つ学生に、是非受講してもらいたいです。

**到達目標**

1. 学生は、警察・消防・市役所・県庁など、「官公庁」に分類される様々な組織・仕事について理解を深めることができる。
2. 私たちの生活を支える公務員の仕事を通じて、地域住民と社会との結びつきを理解できるようになる。
3. 公務員の仕事を知り、それらの仕事を実際の社会とどのように結びついているかを理解することで、公務員として働くモチベーションを醸成できる。

**提出課題**

外部講師が担当された回は、まとめレポートを提出してください。

担当教員が担当する回は、レポートを纏め、ディスカッション（グループワーク）してもらおう予定です。課題は授業中に指示します。

事情により、課題の形式を変更する場合があります。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法**

外部講師のレポートで出された質問の取扱い：外部講師から回答がある場合は紹介します。また、担当教員が担当する回の課題は、時間内に適宜コメントをします。

**評価の基準**

以下2点を総合的に評価します。

1. 外部講師担当回の事後レポート：60%
2. 担当教員担当回の課題：40%

ディスカッションを伴う授業形態をとる場合には、それらを含みます。

**履修にあたっての注意・助言他**

市長など、組織の長の方など、様々な立場の方に外部講師として来ていただきます。以下の項目をよく確認し、失礼のない態度で受講してください。

(1) 受講態度に十分注意すること（受講態度の悪い人には、退出してもらおうことがあります。）

遅刻  
授業途中での退出  
私語  
居眠り  
スマホをいじること  
飲食物を机の上に並べること

(2) 質問の仕方  
講師の方に質問する時は学部と氏名を名乗ってから質問してください。

例)「 学部」です、本日は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。 について質問させてください。-----」

**教科書**

.使用しない。

--	--	--	--	--	--

**参考図書**

--	--	--	--	--	--

**その他**

初回の授業で指示します。

**授業計画**

現在、官公庁と調整中であり、外部講師決定後にお知らせします。

市役所、県庁、警察、公益財団法人などを予定しています。

キャンパスクロスやRyuka Portal で連絡をすることがあります。こまめにチェックしてください。

全15回の授業のうち、3回分（予定：第1回、第8回、第15回）は担当教員が授業を行います。この場合の予習と復習は次のとおりです。

- ・予習：ディスカッションにむけて、受講者各人が選んだテーマについての報告用レポートを作成する（約120分）
- ・復習：授業を振り返り、期末レポートにむけたノート作りをする（約120分）

全15回の授業のうち、12回分を外部講師による講義形式で実施します。

この場合の予習と復習は次のとおりです。

- ・予習：講師の所属する行政組織などについて調べる（約120分）
- ・復習：授業を振り返り、まとめレポートを作成・提出する（約120分）

担当教員と外部講師との担当回に変更することがあります。

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○ウ：ディスカッション、ディベート	○エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

到達目標を達成することで、「官公庁」に分類される様々な組織の、業務の実態についての理解を深めることができる。

また、最終課題に向けて準備することで、以下の力を身に付けることができる。

- ・ 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる。
- ・ 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる。
- ・ 他者に向きかけ、協力を取り付けることができる。
- ・ 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる。
- ・ 自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

外部講師によっては、Responを利用する可能性もあるので事前に準備しておくこと。

**実務経験の有無及び活用**

官公庁所属の外部講師招へいを予定している。

**備考**